

# 「現市長 vs 現知事」 対決の構図は偽り

## 関西州＝福祉削減、成長戦略＝大型開発で目標一致

「改革」の橋下 「人柄」の平松ではなく  
「独裁」の橋下 「福祉削減」の平松

朝日新聞は8月末に実施した世論調査結果について、支持理由の違いから「改革」の橋下「人柄」の平松との見出しで報じました(8月31日付)。しかし、「平松市長 vs 橋下知事」との対決の構図は偽りであり、真の争点をそらすものです。

橋下氏は自ら「政治で一番重要なのは独裁」、「教育に介入必要」と語り、代表を務める大阪維新の会は、教育基本条例、職員基本条例を成立させ、教育に介入するとともに、上意下達の体制をつくり、府の教員、職員を「全体の奉仕者」(憲法15条)ではなく、知事言いなりの公務員にしようとしています。

「改革」の橋下ではなく、「独裁」の橋下です。

### 差し押さえ 無慈悲な市政

平松市長は裏面にあるように「経費削減」を継続し、国保料滞納者に「無慈悲」な市政を進めています。「人柄」の見出しは意図的です。

この世論調査で注目すべきは、①橋下氏の不支持率の上

昇、21%(前回15%)、②任期途中の知事辞職、市長選挙出馬の是非、賛成29%、反対56%、③大阪市民に尋ねた平松氏の支持率32%、前回の42%、不支持率43%、前回36%、支持・不支持が逆転、④「都構想が一番大きな市長選挙の争点か」を尋ねると、「ほかに重要な問題がある」が52%(大阪市民56%)を占め、都構想を最大争点とした29%(同25%)を上回ったことです。

### 「大阪都」から 道州制へ

日本経済新聞(別項)でもまた明らかになったように、平松市長も橋下知事も道州制(関西州)を目指しています。道州制は財界の要望に応え、47都道府県をなくし、10程度の道州制にし、府県の役割縮小、大型開発促進を狙うものです。住民サービスは削減されます。「住民の福祉の増進を図る」地方自治の原点を守り、発展させる考えはありません。

### 府・市・財界一丸

大阪市は大阪湾岸部の夢洲・咲洲の活性化のため、市長、知事、関西経済連合会会長、大阪商工会議所会頭、関西経済同友会代表幹事が委員となり、「夢洲・咲洲地区まちづくり推進協議会」を09年9月から開催しています。アクセス改善、企業誘致・産業振興に10・11年度で計223億5千万円を計上しています。(11年8月25日第4回資料)



大企業のための成長戦略を優先することでは府も市も変わりはありません。経済成長すれば税収が増え、市民福祉を充実できるという、破綻済みの政策を続けさせるわけにはいきません。市対連は「政治を変えたい」市民の願いを実現するために奮闘します。

### 道州制を目指す改革のゴールは共通

(道州制へ同床異夢 知事と市長に聞く 日経8月9日付)

#### 橋下知事、「都」は関西州への道筋

最終的に目指すべきは、府県や都を廃止する道州制に基づく「関西州」の実現だ。…大阪都実現に向けたいまの取り組みは、道州制に向けた前哨戦のようなものだ。

#### 平松市長、まず4政令市が中核に

橋下知事が提唱している「大阪都構想」とは、府が大阪市をばらばらにして、権限や財源、資産まで何もかもぶんどってしまうという案にしか見えない。当然、反対の立場だ。…ただ東京一極集中の弊害ははっきりしている。弊害を解消するために目指すのは関西州だ。…関西州誕生への過程で、大阪市は新たな権限と財源を譲り受けることで、地方の事務全てを一元的に担う「特別自治市」という新しい姿に変えていく。もちろん、市域を越えた広域の行政サービスまではできない。

#### 裏付けのある議論に期待

道州制を目指す改革の「ゴール」は共通しながらも、そこに至るプロセスが異なる橋下知事と平松市長。…中傷合戦にならない裏付けのある議論が求められる一方、多額の府債や市債残高を抱える現状が横たわる。有権者は、暮らしに直結する財政の健全化など目の前の課題への取り組みにも視線を注いでいる。